

ウクライナ 100日 レポート

子どもの権利保護に向けた
ユニセフの取り組み

2022年6月

ユニセフ発足以来、ヨーロッパが目の当たりにした最大の人道危機。皆様からのご寄付は、多くの子どもたちと家族に命を守るための支援につながっています。



2022年4月19日、ウクライナ北東部ハリコフの地下鉄で、体を動かす子どもたち。駅には、戦禍を逃れた子どもたちや家族が身を寄せています。

© UNICEF/UN0634462/Gilbertson

戦争の影響

2022年2月24日、ウクライナでは紛争が類を見ないスピードと規模で拡大しました。数百万人が行き場を失い、必要物資や、保健・水・食糧・教育インフラを含む公共サービスが破壊・損傷されました。この3カ月足らずの間に、600万人が周辺国をはじめ海外に安全を求めて避難し、そのうちの300万人超がポーランドに退避しています。また、800万人がウクライナ国内での避難生活を余儀なくされています。少なくとも255人の子どもが死亡し、382人が負傷したことが確認されていますが、実際の犠牲者はこの数字を上回り、今後も増え続けると予想されます。

ユニセフは即時停戦を呼びかけています。私たちは、人口密集地での爆発性兵器の使用を含む危険から子どもたちを守るよう求めます。また、学校、保健、水と衛生関連の設備など、子どもたちが依存する民間インフラへの攻撃をやめるよう求めます。

ユニセフとそのパートナーは、長年にわたってウクライナの子どもたちのために活動してきました。2014年からは東部で紛争の影響を受けた子どもたちを支援しており、今回戦闘が全土に及んだ際には、皆様からのあたたかいご支援を受けて活動の規模を大幅に拡大し、緊急物資の提供や、重要な公共サービスの維持・拡充、最も脆弱な状況に置かれた人々のニーズに対応できるようウクライナおよび難民受入国の政府へのサポートなどを通じて、紛争の影響を受けている子どもたちを支援しています。

ウクライナでは、
100日間におよぶ危機
によって、520万人の
子どもたちが支援を
必要としています

A photograph showing a woman and a young child looking out of a train window. The woman is on the left, looking towards the camera with a somber expression. The child is in the center, looking out the window. Another person's face is partially visible on the right side of the window. The background outside the window is blurred, suggesting motion.

2022年3月14日、ウクライナ西部にあるリヴィウの駅で、最愛の人たちとの別れを惜しむ母親と子ども。ウクライナを出国する子どもと家族の数は増え続けています。人々が周辺国に避難するには、保護、安全、平和、支援が必要です。

© UNICEF/UN0619502/Diffidenti

ウクライナ危機は、極度の不安に晒され続けている子どもたちのウェルビーイング（精神的な豊かさや健康など）に計り知れない影響を与え、健康と発達に即時的・長期的な弊害をもたらしています。女性と子どもは、自宅で避難している間や移動中、あるいは安全な場所を探し求める際、ジェンダーに基づく暴力の深刻なリスクに直面します。様々なインフラやサービスが停止する中、国内におけるニーズは、保護、保健、水と衛生、教育、社会経済的支援など、複雑多岐にわたります。ウクライナから避難する人々の90%は女性と子どもです。すべての人が搾取や虐待の大きなリスクに直面しており、また、障がいを抱えた子どもや人々も多く、アクセスやコミュニケーション、移動が特に困難な状態にあります。幼い子どもたちや青少年の学習と発達が阻害されており、一時的な学習手段を直ちに提供するだけでなく、ウクライナの教育制度に沿った、あるいは受入国の制度に組み込まれた、中長期的な持続的教育を計画することが求められています。

ウクライナ国内では、人々は今も地下シェルターや地下鉄の駅に避難することを余儀なくされています。また、多くの家族が離れ離れになっています。皆様からのご支援を受けて、ユニセフは人々のために活動を行っています。子どもたちや家族、サービスを提供する人々に対し、命を守るためのサービスや情報、物資を提供しています。さらに、ウクライナやヨーロッパ各国の政府および市民社会と連携して、既存の制度や公共サービスを支援・強化・拡充することで、子どもと家族を守り、この未曾有の人道支援ニーズに応えています。

ウクライナから避難する人々の90%は女性と子どもで、すべての人が搾取や虐待の大きなリスクに直面しています。

ウクライナ国内



300万人

の子どもたちが、
緊急人道支援を
必要としています

235

回にわたって医療施設
が攻撃を受けています



800万人以上の人々が国内に

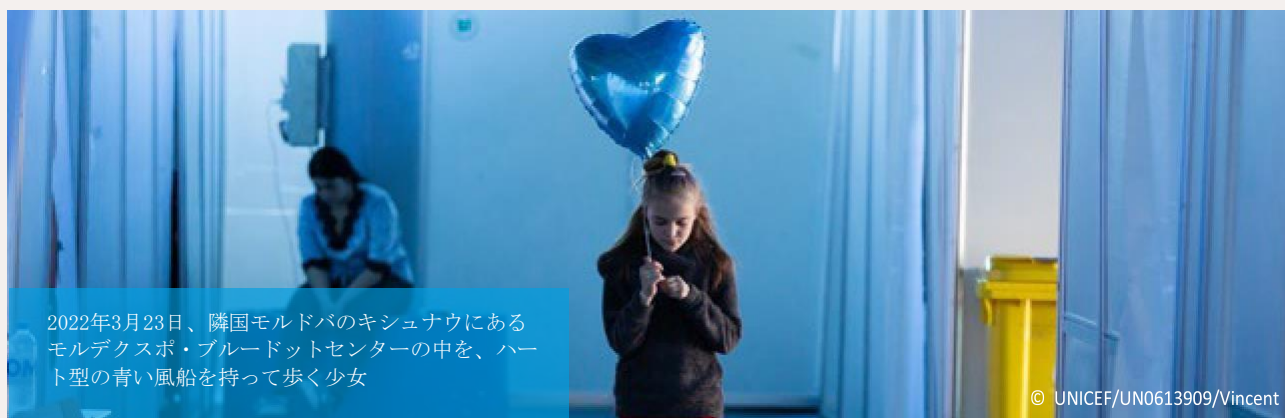
避難しています



少なくとも255人の子どもが命を落としています



少なくとも382人の子どもが負傷しています



2022年3月23日、隣国モルドバのキシユナウにある
モルデクスポ・ブルードットセンターの中を、ハート
型の青い風船を持って歩く少女

© UNICEF/UN0613909/Vincent

難民受入国



220万人

の子どもたちが緊急支援
を必要としています



620万人

を超える人々がヨーロッパ諸国に避難し、
その半分以上（350万人）がポーランドに
退避しています



人身売買、暴力、搾取、虐待などの深刻な
リスクに晒されています



新たなニーズに対応すべく、国の保護システ
ムや公共サービスの拡充が求められています

子どもたちのための成果

皆様からのあたたかいご支援により、ユニセフは、この危機の即時的・長期的影響に直面する多くの子どもたちと家族に支援を届けることができます。直接的な支援はもちろん、政府やパートナーとの協働を通じて、子どもたちの直近の安全と精神的健康、および復興に向けた道のりをサポートします。

分野	2022 年目標受益者数	累計受益者数
水と衛生	3,700,000	2,119,866
保健	5,300,000	2,160,259
子どもの保護	2,200,000	624,321
教育	1,200,000	501,151
社会的保護	307,500*	27,156*
情報・社会・行動変容	15,000,000	7,349,784

*世帯数。

ウクライナと難民受入国による数字を合算（2022 年 5 月 31 日時点）

供給とサービス



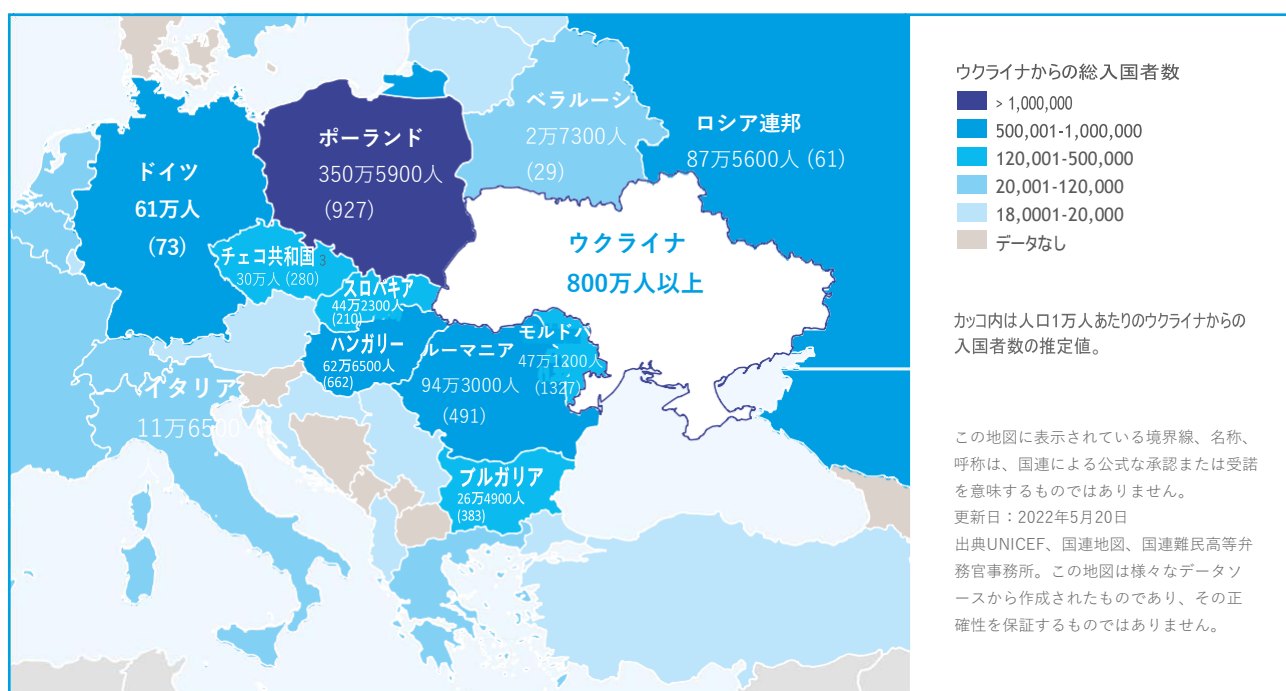
- 2月24日以降、この戦争の影響を受けている子どもたちのために1億8,720万ドル相当の緊急支援物資を手配しました。
- 保健・栄養物資や、水と衛生用品、教育キット、乳幼児期の子どもの発達用キットなど、1,780万ドル相当の緊急支援物資をウクライナに輸送し、1,500万ドル相当の緊急支援物資がコミュニティやパートナーに届けられました。

皆様からのあたたかいご寄付によって、ウクライナとヨーロッパ全域の何百万もの子どもと家族が、以下の支援にアクセスできています。

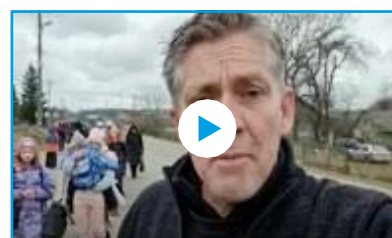
- 210万人の子どもと女性が、ユニセフが支援する施設でプライマリ・ヘルスケアにアクセスできました。
- 220万人が十分な量の安全な水にアクセスできました。
- 40万人以上の子どもたちが、早期学習を含むフォーマルまたはインフォーマル教育にアクセスできました。
- おとなの同伴者がいない、あるいは親や家族と離れ離れになった3,875人の子どもたちが特定され、専門家による保護サービスを受けました。
- ウクライナ国内だけで、障がいのある子どもを伴う家族を含む32,000人以上が人道的現金給付を受けました。
- 730万人が、命を守るための情報や、サービスにアクセスするためのサポートを受けました。

ユニセフによる 子どもたちのための活動

この戦争が子どもたちに与える影響は甚大かつ直接的で、長期にわたって続きます。ウクライナや難民受入国の政府は、最も脆弱な立場にいる人々のニーズに応えるために懸命に取り組んでいます。コミュニティの人々も、避難を余儀なくされた子どもたちと家族に支援の手を差し伸べています。ユニセフとそのパートナーは、各国政府、地方行政、市民社会、パートナーと連携し、子どもたちや家族と直接関わりながら、ウクライナおよびヨーロッパ全域にいる子どもたちのために活動しています。



社会から取り残されがちな脆弱な人々は、緊急事態下においてしばしばより大きなリスクに晒されます。今回の危機では、難民の90%が女性、少女、少年であり、日々新たなリスクに直面しています。人身売買、搾取、虐待のリスクは深刻です。ウクライナでは16万4,000人の障がいのある子どもたちが登録されていますが、登録されていない子どもたちはもっと多い可能性があります。ウクライナ国内に留まっている、あるいは移動中の脆弱な人々は、支援を見つけたり、情報にアクセスしたり、安全を確保したりすることがより困難になることも予想されます。ユニセフは、そうした人々のために献身的に活動しています。計画が具体的なニーズを認識しそれに対応していること、モニタリングによって継続的に進捗状況を把握していること、パートナーが活動を推進していることを確認しています。すべての子どもたちに支援を届けるために、正確で詳細なデータを収集し、パートナーをトレーニングすることは、現在も、そしてこれからも、どの支援分野にも共通する優先事項です。



ユニセフ広報官による現地レポート
([クリック](#))

ウクライナ国内での活動

ウクライナにおいて、ユニセフは、国を3つのゾーンに区切って支援を実施しています。激しい軍事衝突が続き、アクセス上の制約もある東部（ゾーン1）では、緊急対応チームが機関間人道援助車両部隊、地方自治体、市民社会のパートナーと連携して活動を実施しています。一方、中部と西部（ゾーン2と3）のように、安全保障上のリスクやアクセス上の課題が限定的な場所では、既存の国のシステムや地方自治体（州や市町村）、市民社会のパートナーと協力して人道支援を実施しています。

2月24日の紛争激化以降、デンマーク、ポーランド、トルコの主要倉庫から3,060トンを超える物資が輸送され、子どもたちとその保護者に命を守るための水、衛生用品、栄養物資、医療器具、ワクチン、心理社会ケアと学習のためのサポートなどが提供されました。その結果、200万人以上が保健医療にアクセスできるようになりました。また、給水車やボトル入り飲料水の配布、主要場所での水の確保などを通じて、210万人以上が安全な水にアクセスできるようになりました。さらに、15万2,347人が水と衛生用品にアクセスできるようになりました。

ウクライナでは、
200万人以上が保健
医療にアクセスできる
ようになりました。



即応メカニズム（RRM）は、移動中や極めて支援が届きにくい場所にいる脆弱な人々（子どもを含む）に人道支援を届けるために、機関間で支援を調整する仕組みです。命を守る物資（水、衛生用品、女性や少女の尊厳キット、栄養ビスケット等）を人々が迅速に受け取れるようにすることで、緊急的に生活を支援します。ウクライナでもRRMの体制がとられ、前線に近い100以上の避難所や、東部の支援が届きにくい場所にいる家族が恩恵を受けています。

左：2022年4月21日、ウクライナ西部ウジホロドの医療センターで、母親のハンナに抱っこされながら、ポリオの予防接種を受けるソロミヤ（1歳）。

中央：2022年4月4日、南部の港町オデーサにある第5産院で、生後4日の娘パイオレットの世話をするダイアナ（23歳）。

右：2022年4月4日、ユニセフからザポリージャの病院に届けられた救命医療キットなどの物資。



ザポリージャの小児科病院に物資を提供し、紛争下での医療継続を支援した
([クリック](#))



ウクライナ：ゾーン1

アクセスが最も困難なウクライナ東部において、ユニセフは、紛争の影響を受ける子どもや家族のために2014年から活動しています。私たちにはコンタクト・ライン（接触線）の両側にパートナーがあり、子どもたちに重要な情報を提供し、命を守るための物資やサービスを提供しています。ゾーン1では、RRMのメカニズムを活用することで、最も困難な状況下にいる子どもや家族に支援を届けることが可能となっています。例えば、RRMチームの一つは、ザポリージャに拠点を置き、マリウポリから避難してきた人々を支援しています。避難する人々に清潔な水と重要な物資を提供し、彼らが移動を続け、他の場所でもサービスを受けられるよう手助けします。人道支援パートナーとの連携のもと、4月の1週間で、マリウポリや最前線から避難してきた1万500人以上を支援しました。これにはアゾフスタリ製鉄所から逃れてきた161人（うち51人は子ども）が含まれています。支援を必要とする人々の数が増え続ける中、ユニセフの士気も一層高まっています。これまでに3万リットルの水、5トンの医薬品、1,200個の衛生用品、レクリエーション用品、子ども用の非常食、カウンセリング、心理社会的支援活動などを避難者に提供しました。

また、東部ドニプロに拠点を置くチームを通じて、3,060トンの保健医療用品や、水と衛生用品を事前配備しています。ドニプロとザポリージャにある190のトランジット・センター（一時受入所）や情報センターを支援し、18万人以上の避難民に衛生キット、水、栄養物資、子どもの保護支援など命を守る物資やサービスを提供しています。4月には、ハルキウ、クラマトルスク、ライマン、キロヴォフラード、ドニプロ、ザポリージャ、ドネツク周辺の地方自治体が、最大25万人のニーズに対応するのに最低限必要な事前配備用および緊急用の物資を受け取りました。支援は5月から6月にかけても続いています。ウクライナ全土において、ユニセフの人道支援チームとパートナーは、最も脆弱な状況にある人々に対し、まさに命を守るための支援を届けようと懸命に取り組んでいます。ユニセフは国内の主要な自治体と連携しており、それによってコミュニティでの物資提供をサポートし、支援が最も届きにくい地域の脆弱な子どもたちに手を差し伸べることができるのです。

2022年3月11日、西部の都市リヴィウで、オクマデイト小児病院への医療物資の供給を手伝うユニセフ・ウクライナ事務所代表のムラート・シャヒン（左）。

ウクライナ：ゾーン2、3

ウクライナの中部と西部において、ユニセフは、病院や保健センターに物資を事前配備しました。また、地方自治体や市民社会を通じて、水と衛生、教育、栄養、保護活動などの人道支援を行いました。さらに、「スピルノ（「共に」の意味）チャイルドスポット」のネットワーク作りをサポートしました。スピルノ・チャイルドスポットは、分野横断的に子どもや家族を保護、支援するための安全な空間で、支援を必要とする人々が最低限のサービスに容易にアクセスできるよう、主要都市や、避難民が集中する場所に設置されています。

また、障がいのある子どもたちを含め、誰もが利用しやすいように設計されています。現在、各スポットでは、毎日100人以上の子どもと保護者をサポートしています。スポットを通じて12,000人以上の子どもたちに、学習支援、保護支援、保健サービス、爆発物のリスクに関する情報、メンタルヘルスや心理社会的サポートなどの緊急物資やサービスを提供してきました。

2022年4月27日、ウクライナ西部のテルノービリにあるユニセフの「スピルノ・チャイルドスポット」で、母親のカテリーナ（27歳）と遊ぶサシュコ（18ヵ月）。ここでは医師が希望者に新型コロナウイルスワクチンを接種したり、親に定期予防接種に関するアドバイスを行ったりもしている。



ユニセフがウクライナ全土に設置している「スピルノ・チャイルドスポット」 [（クリック）](#)

ユニセフは、ウクライナ全土の11地域をカバーする60以上の移動チームを配置し、戦争という異常事態下で影響を受けている子ども（障がいのある子どもを含む）と家族の安全、保護、保健、メンタルヘルスの問題に取り組んでいます。これらのチームを通じて、多くの子どもとその保護者に、ジェンダーに基づく暴力の予防と対応に関するサービス、保護事案管理、法的支援、保護サービスへの紹介、メンタルヘルスと心理社会的支援を行ってきました。

ドニプロでは、100万人以上に緊急物資とサービスの提供を行ってきました。現場のユニセフチームは、世界中の同僚からの支援を受けながら、休みなく活動を行っています。ウクライナのユニセフチームは、長年の知識と経験を活かして、ニーズ分析、ロジスティクス、現場でのパートナーシップ構築、複雑な環境下での物資の管理や輸送などを行っています。スタッフの多くは自らもこの戦争の影響を受けていますが、ウクライナの子どもたちのために献身的に忍耐強く働いています。チームが最も深刻なニーズを抱える子どもたちに戦略的かつ迅速に支援を届けることができるのは、物資や安全を提供するオペレーションチームから、ウクライナのサービス提供者や保護者や子どもたちのために日々活動するプログラムオフィサーに至るまで、ユニセフスタッフの確かなコミットメントの証しと言えます。



「皆様からのあたた
かいご支援は、この
危機を生きる子ども
たちに支えと希望を
もたらせています。
心から御礼を申し上げ
ます」

ユニセフ事務局長
キャサリン・ラッセル



緊急事態下では、情報は物資と同様、命を救うことにつながります。2月に紛争が激化して以降ユニセフは、放送メディア、子どもホットラインの支援、Instagram / Facebook / ViberなどのSNSを通じて、安全確保の方法や支援を受けられる場所などに関する情報を730万人に提供してきました。ユニセフが支援するホットラインでは、子どもや保護者がアドバイスやガイダンスを受けます。2月以降、ウクライナの多くの子どもたちに情報やサポートを提供してきました。現在行っている爆発物リスク教育普及キャンペーンは、毎週630万人以上に直接情報を届けることにつながっています。ユニセフ・ウクライナ事務所のSNSチームは、長年にわたり子どもたちの安全を守るために活動してきましたが、今日その役割はかつてないほど重要になっています。



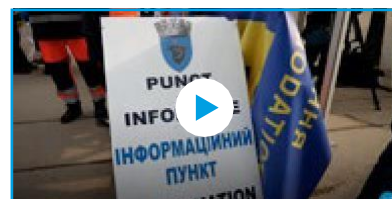
2022年4月1日、ポーランド国境の街メディアカにあるユニセフテントの前で、ポーズをとる
きょうだい。左からKhrystyna（10歳）、
Jasmine（6歳）、Samson（8歳）、Snezhana
（14歳）、Avron（5歳）、Avra（11歳）。

© UNICEF/UN0619564/Korta

難民受入国での活動

多くの人々がウクライナから国境を越えて周辺国を目指していますが、そのほとんどが女性と子どもたちです。そうした中、政府や地方自治体、地域コミュニティは、難民への場所と支援の提供を迅速に開始しました。ユニセフとパートナーは、人身売買、暴力、搾取、虐待、家族離散、戦争や避難がもたらす長期的な心理社会的影響などの保護リスクを指摘しました。モルドバやルーマニアなど、ユニセフがすでに子どもたちのために主要プログラムを提供している国々では、ユニセフによって国境付近に安全な空間が設置され、スタッフが機動性と拡張性のある緊急対応を行いました。ポーランド、スロバキア、ハンガリーなどの国々では、ユニセフのチームは政府とともに迅速に対応し、ニーズ分析や、人道支援の実施に向けた承認の取り付け、ユニセフが支援すべき分野の特定などを行いました。

この100日間、安全な空間、必要不可欠なサービス、コミュニケーション、トレーニングによって、ヨーロッパ中の何百万もの人々が恩恵を受けました。



ユニセフとUNHCRによる最初のブルドット・ハブ。紛争激化から間もない頃に、ルーマニア国境付近に設置された。（[クリック](#)）

安全な空間や保護、支援を提供するための拠点：ブルードット

ユニセフは、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）やその他のパートナーと協力して、ポーランド、モルドバ、ルーマニア、スロバキア、イタリア、ブルガリアなど各地で、安全な空間や保護、支援のための拠点を設置しています。ここでは、戦禍を逃れてきた子どもやおとなが必要最低限のサービスを受けることができます。この「ブルードット」と呼ばれる施設は、アクセシブルかつインクルーシブで、毎日最大1,000人に一貫したサービスを提供しています。これまでに、7万1,000人以上がユニセフの活動やブルードット・ハブを通じて、保護サービスの紹介を受けたり、アドバイスやガイダンス、メンタルヘルスや心理社会的サポートを受けたりしました。また、同様に100万人以上が安全な水にアクセスできました。これまでに、計25のブルードット・ハブが子どもや家族のために設置、運営されています。

今日までに、計25のブルードット・ハブが子どもや家族のために設置、運営されています。



ブルードットの最も重要な役割の一つはとてもシンプルです。それは「親と子どもが休憩し、遊ぶための安全な場所」というものです。マキシム（4歳）がボールの上でバランスをとって遊ぶ間、母親のアンナは休憩し、今後について考えることができます。二人はウクライナ南部ヘルソンからルーマニアにやってきました。この日は風が強く、屋外で何かが倒れる音がすると、戦禍を逃れてブルードットにやってきた子どもたちと母親はびっくりとします。ユニセフのスタッフによると、国境を越えてきた子どもたちはシェルショック（戦場において受ける強い心理的ショック）を抱えているといいます。多くは目を大きく見開いているか、涙を浮かべており、しゃべりたがらないことがほとんどです。ブルードットは束の間の休息の場です。心理社会的サポートや専門家による社会的ケアにアクセスできる場所であり、シェルショックの影響を和らげる場所なのです。

ブルードット・ハブで提供されるサービスの例：

-  リスクに晒されている子どもの特定と紹介
-  メンタルヘルスや心理社会的支援
-  法的支援とカウンセリング
-  情報 / ロジスティクス / アドバイスデスク
-  子どもと家族にやさしい空間
-  応急処置
-  安全な休憩スペース
-  緊急物資の提供
-  Wi-Fi

モルドバでは、ユニセフとUNHCRによるブルードットの外でも、多くの子どもたちが政府組織との連携を通じたレクリエーションやノンフォーマル教育、スポーツ活動の恩恵を受けています。ユニセフと保健省は、キシナウ市役所やユースクリニックとも協力して、40以上の青少年向け保健サービスをまとめ、難民受入コミュニティの10～24歳の青少年を対象とした「24時間365日対応ユースクリニック支援ライン」を立ち上げました。ルーマニアでは、慈善団体Fundatia Regina Mariaとの連携のもと、ウクライナの子どもたち150人に教育や支援のサービスを提供し、彼らがウクライナのカリキュラムの下で現在の学年を修了してからルーマニアの教育制度に編入されるよう支援しています。



2022年3月16日、ルーマニア北部のシゲトゥ・マルマツィエイにある、ウクライナとルーマニアを結ぶ橋の上で、おもちゃを並べるエイドリアン。家族とともに故郷を離れたウクライナの子どもの多くは、おもちゃを持っていくことができませんでした。バッグの中は、すでに必需品でいっぱいだったからです。エイドリアンは娘のビアンカ（15歳）と一緒に、子どもたちにおもちゃを提供することを思いつきました。「おもちゃは子どもの人生にとってとても大切」とビアンカは言います。

人道的現金給付支援

ユニセフは、ウクライナを含むヨーロッパ全域において、社会的セーフティネットを拡充し、脆弱な子どもや家族に直接的な現金給付支援を行うための計画を策定しています。緊急事態下において、現金給付は、物資の配布よりもしばしば費用対効果に優れているという検証結果もあります。ウクライナの確立された社会支援システムを補完すべく、ユニセフは政府との連携のもと、直接的な人道的現金給付を開始し、家族が自分たちにとって最善の決断ができるよう支援しました。約32,000人が、政府および銀行との連携による多目的現金給付支援を受けています。優先的措置として、障がいのある子どもや3人以上の子どもがいる世帯には、1人当たり月額2,220UAH（75ドル）の第1回支払いがすでに行われています。

モルドバでは、ユニセフとUNHCRによる現金給付プログラムの一環で、52,000人以上が支援を受けています。8つの登録センターが稼働し、5月中旬までに一人当たり120ドル、計470万ドル以上が支払われ、そのうちの92%が女性を世帯主とする家庭に送られました。ヨーロッパの他の地域では、本人確認、登録、緊急現金給付のためのシステムが構築されています。

人道的現金給付は、それぞれの家族が自分たちのニーズを把握して優先順位付けを行い、自主性を大切にしながら、緊急事態下でも尊厳と精神的豊かさを維持することにつながります。現金は、変化する特異な状況に柔軟に対応することができます。また、ロジスティックス面の負担が少ないため、支援が最も届きにくい場所にいる人々へも容易に届けることができ、地域経済を支えることにもつながります。現金給付は、支援範囲、柔軟性、人間の尊厳を最適化する上で重要かつ効果的な緊急支援策なのです。

「私が感じるのは、怒りではなく行動したいという気持ちです」

地域の情報ボランティア
ソロミヤ（16歳）

子どもたちのための 制度やサービスの 強化

ウクライナ政府および 難民受入国政府との協働

ユニセフは、すべての子どもの権利を保護、促進、擁護するために活動しています。高所得国、中所得国、低所得国を問わず、私たちは政府や既存の制度、サービス提供者と協働することで、子ども中心のガバナンスや脆弱な子どもたちの直近のニーズに応えるためのサービスを支援するとともに、中長期的なニーズを満たすことができるよう取り組んでいます。子どもたちのためのサービスやシステムそのものへの取り組みは、持続可能性の確保に加えて、公共サービスの全国的ネットワークを通じた大規模支援を可能にします。これが私たちの「システム強化」活動であり、ウクライナ緊急人道支援の核となる部分です。子どもと家族に対する物資・サービスの直接提供や、保健、教育、子どもの保護に関する直接的サポートと同様に、システム強化は、子どもたちの喫緊のニーズを満たし、彼らの未来を守ることにつながるのです。



© UNICEF/UN0620995/Hrom

2022年3月18日、ウクライナのウジホロド駅で人形を抱いて座るミラナ（3歳）。紛争激化後、ミラナは父親とともにクリヴィー・リフからウジホロドに逃れ、その後、ポーランドに避難しています。

既存システムとの連携

ユニセフは世界中で、ほかの国連機関と協働で、政府や市民社会のパートナーとも連携しながら、子どもたちのためのプログラムや政策を実施しています。ポーランド、イタリア、ドイツなどの高所得国では、ユニセフ国内委員会が代表を務めています。国内委員会の役割は、国の政策、制度、コミュニケーションにおいて、子どもの権利を保護、促進、支持するための提言を行い、世界の子どもたちのために重要な募金活動やパートナーシップ構築をサポートすることです。

2015年～16年にかけての難民・移民危機や、600万人以上がウクライナから国境を越えてポーランド、スロバキア、ハンガリーなどに避難している今回のウクライナ危機のような緊急事態において、ユニセフは、ニーズが大きく、国の対応力が追いついていない国々でそのプレザンスを調整し、新たな活動を準備しなくてはなりません。場所や状況を問わず、私たちは政府、市民社会、家族と連携して、子どもたちのためのサービスやシステムの強化に取り組んでいます。高所得国では、既存のシステムを活用して対応できるよう政府を支援することが、緊急事態下でのユニセフの活動の中核をなしています。

私たちは、政府のシステムやサービスによってすべての子どもの権利が支持され、保護されるよう取り組んでいます。すべての分野において、政府の技術的能力、モニタリング、学びの強化を支援するとともに、子どもの権利を根付かせるために国の政策やサービス提供に影響を及ぼします。

ウクライナにおいて、ユニセフは引き続き、保護、保健、教育を担当する各省が状況をモニタリングし、子どもと家族のために対応するようサポートを行っています。国による子どもヘルプラインなどへの支援を続けており、これまでに2,000人以上の子どもたち（67%が少女）にオンライン相談やジェンダーに基づく暴力への対応などに関するサービスを提供しました。また、地域レベルの緊急対応計画の策定（メンタルヘルスや心理社会的支援に関する子どもの保護を含む）や、事案管理、ジェンダーに基づく暴力の防止と対応措置の広域展開を支援しています。社会サービス分野では、事案管理、子どもの追跡や家族の再会に関するトレーニングを実施しています。教育分野では、避難民の子どもや紛争の影響を受けた人々のための安全でインクルーシブな学習のために、教員のスキルアップを図る取り組みを進めています。これには障がいのある子どものためのアクセス向上、学校での感染予防や管理、学校でのメンタルヘルスや心理社会的な支援などが含まれています。また、職員自身がメンタルヘルスのサポートを受けられるよう支援しています。

さらに、オンライン学習・開発プラットフォームなどを通じて、周辺国に逃れた子どもたちとウクライナの制度やサービスとをつなぐ取り組みを行っています。また、児童養護施設に入所している子どもたちの居場所や状況を継続的にモニタリングしています。入所している子どもたちのための共同モニタリングでは、ウクライナ国内で入所している51,462人の子どもたちが、家に戻る（84%）か、施設にとどまる（6%）か、ウクライナ国内で移動する（4%）か、他国へ移動（6%）していました。

ヨーロッパ全域では強固な保護・教育制度が整備され、各省庁は2022年3月4日にEUが発動した避難民保護に関する**一時保護指令**の適用を進めています。その中におけるユニセフの役割は、国や自治体と連携して支援の領域（ガバナンス、トレーニング、財政、技術など）を特定し、既存のシステムを応用、拡充させて、この前例のないニーズに応えることです。例えば、国境管理当局の能力を強化する、国の児童登録制度を利用して子どもの登録を支援する、国の児童保護制度を通じて紹介プロセスを確立する、同伴者のいない子どもや家族と離れ離れになった子どもを特定する、特別なニーズや障がいをもつ子どもを中心に子どもたちのニーズをモニターする、といったことが含まれます。ユニセフは、欧州委員会とともに、乳幼児期の教育とケアに関する状況分析を行う可能性について模索しています。

ユニセフは、オンライン学習・開発プラットフォームなどを通じて、周辺国に避難している子どもたちをウクライナの制度やサービスにつなげる取り組みを行っています。



2022年3月15日、ユニセフが支援する
シゲトゥ・マルマツィエイのブルード
ットで、ウクライナからルーマニアに
国境を越えたばかりの幼い子どもにお
もちを手渡すユニセフスタッフ

© UNICEF/UN0632497/Holerga

難民受入国において、ユニセフは、国や自治体との連携を続け、難民の子どもたちや女性による保健、栄養、水と衛生、多目的現金給付といったサービスへのアクセスを容易にし、補完します。また、武力紛争の影響を受けた子どもたちや若者が継続的に学習できるよう、難民の子どもたちの学習や学校への編入を促進するための政策、関与、助言、政府への支援のための基盤作りを行っています。これには、登録の推進、制度や学校を拡充させるための支援、オンライン教育へのアクセス提供のための取り組みやサポートが含まれます。スロバキアでは、ブラチスラヴァ市や国と連携して地元警察や社会福祉関係者、国境警察に対し、人身売買の防止や、脆弱な女性や子どもの特定とサービスの紹介、子どもにやさしいコミュニケーションに関する能力強化を行いました。また、人々の迅速な越境と中継地点の通過の促進が優先事項である一方、各国政府は、同伴者のいない子どもや家族と離れ離れになった子どもを中心に、子どもや女性が人身売買のリスクに晒されていることを懸念し、ユニセフに脆弱性の指摘と適切な対応に関するサポートを求めました。ユニセフは、人身売買対策、子どもにやさしいコミュニケーション、サポート紹介の専門トレーナーを配置しました。17カ国以上の政府に対して専門的なトレーニングを行い、法執行機関や国境管理当局のための追加ガイダンスを作成しました。

モルドバにおいては、リスクに晒されている子どもの利益を最優先に考えた迅速評価ツール開発のための技術的支援を提供し、労働社会政策省にも承認されました。また、国内の非政府組織「Partnerships for Every Child」と協働し、同伴者のいない子どもや家族と離れ離れになった子どもへのケアに関する研修を支援しています。引き続き国の教育制度と連携し、700人以上の教員に対して、インクルーシブ教育、回復力の構築、社会の一体性、いじめと暴力防止に関する研修を促進しています。

ユニセフは、人身売買のリスクを減らすために、警察、国境管理当局、社会福祉関係者に研修と指導を行っています。



2022年4月9日、ウクライナ中西部のビンニツァでオンライン授業に参加するアルセニー（12歳）。戦争前は、毎朝、妹のイバンナを学校まで送り、地下鉄に乗って自分の教室に通っていました。今は、争いが激化する中で、画面越しに授業に参加しています。成績は良いですが、家と学校が恋しくてたまらないようです。「戦争が終わって、普通の生活に戻りたい」とアルセニーは言います。

© UNICEF/UN0633057/Latayko

すべての人に継続的な学習を提供する教育システムの支援

この戦争は、ウクライナの子どもたち570万人の学習に影響を及ぼしています。2022年2月21日、緊迫する状況を受けて、ウクライナ全土の学校が閉鎖されました。しかし、その後の戦闘激化にもかかわらず、3月14日までに全国的な遠隔学習用プラットフォーム「All Ukrainian Schools Online」を通じて、13の地域で教育へのアクセスが再開されました。現在までに、ウクライナとその周辺国にいる300万人以上の子どもたちが、このプラットフォームを通じて学習しています。ユニセフは教育科学省と連携して、3～6歳の子ども向け教育ビデオを集めたオンライン幼稚園プラットフォーム「Numo」を立ち上げました。Numoの第1話は、24時間で2万5,000人に視聴されました。さらにユニセフは、幼児の保護者にサポートやアドバイスを提供するための育児支援用モバイルアプリ「Bebbo」を開発し、リリース後2週間で7,000人以上に利用されました。4月28日現在、12,600以上の学校が遠隔で授業を実施しています。16地域にある3,400以上の幼稚園が遠隔もしくは対面、またはハイブリッド式を継続しています。国内に避難する1,800人以上の就学前児童が、受入地域の幼稚園に入園しています。

ウクライナの教育におけるユニセフの最優先事項は、子どもたちが学習を再開できるようにすること、すなわち子どもたちが日常の感覚を取り戻すとともに、保護され、今年度の学習を終えられるよう支援することです。そのために、ウクライナおよび難民受入国の政府や教育機関と連携して取り組んでいます。

3月14日までに全国的な遠隔学習用プラットフォーム All Ukrainian Schools Online を通じて、13の地域で教育へのアクセスが再開されました。



ウクライナ北部チェルニヒウで、マリヤ（10歳）は家族の一時的な住まいとなった教室でタブレットを使って勉強しています。

© UNICEF/UN0636573/Hudak

ウクライナにおいて、ユニセフは、研修を修了し国内100か所で活動を支援する準備ができている教員50名を通じた直接的な教育支援と並行して、パートナーや教育科学省との連携により、子どもたちに教育サービスや心理社会的ケア、メンタルヘルス支援、保護サービスを提供するための活動を行っています。教育科学省とともに、オンライン学習・開発プラットフォームの継続的な運営を支援してきました。100人以上のボランティア教育関係者がメンタルヘルスと心理社会的支援に関する研修を受けました。また、地域の市民社会とのパートナーシップを構築し、就学前教育へのアクセスを改善するとともに、ウクライナの高等教育への透明で公正な入学を支援しています。

難民受入国では、学校や政府との連携のもと、従来の緊急用教材に加えてノートパソコンやタブレット端末を調達しています。また、教員に対して、教室での難民の子どもたちのメンタルヘルスと心理社会的支援に関するトレーニングを実施しています。さらに、必要に応じてウクライナ人教員の採用を支援しています。当面の優先課題は、物資やサービスの調達を通じて子どもや若者の学習機会を確保し、現在の学年を修了できるようにすることですが、他方で、長期的に難民の子どもたちを受け入れるよう学校や教育システムの計画策定や拡充も支援しています。

ポーランドでは、分野を越えて国や自治体と緊密に連携しています。20万人以上の難民の子どもたちが地元の学校に登録・入学しており、既存の教育制度への圧迫につながっています。ユニセフは各国政府やデータアナリストと協力して、全国の学校の受入状況をマッピングする作業を行い、都市部への集中を緩和し、学校やリソースへの負荷を軽減し、難民の子どもたちへの質の高い教育の提供を支援しています。国レベルでは、メンタルヘルスや心理社会的支援、被災した子どもたちのための形成学習とキャッチアップ学習に関する教員向け教材の開発と普及を支援しています。自治体とは、夏のアクティビティの実施や、新学期でニーズが高まった際に備えた緊急対応計画の策定（教員支援、デジタル学習ツール、異文化理解支援とインクルージョンなど）を支援しています。

難民受入国では、学校や政府との連携のもと、従来の緊急用教材に加えてノートパソコンやタブレット端末を調達しています。また、教員に対して、教室での難民の子どもたちのメンタルヘルスと心理社会的支援に関するトレーニングを実施しています。



「...一緒なら必ず実現できます」
ユニセフ・ルーマニア事務所 ユリア
(クリック)



2022年4月7日、ルーマニア国境のイサク
チャにあるブルードットで、ユニセフス
タッフと遊ぶエマ（5歳）

© UNICEF/UN0622178/Holerga

子どもたちを守るため、 引き続き皆様からのご支援が 必要です。

皆様からのお力添えにより、ウクライナの戦争の影響を受けた子どもたちと家族は、この非常に困難な状況下において極めて重要な支援を受けています。しかし今日、そして今後数カ月にわたり、さらなる支援が必要とされています。2022年、ユニセフは政府や市民社会との連携のもと、少なくとも280万人の子どもを含む670万人の人々に、包括的で権利に基づく人道支援を届ける予定です。これには保健、保護、教育、水と衛生、栄養、情報などのためのシステム強化支援、サービス提供、物資供給が含まれています。

紛争下にある国の数は、1989年に子どもの権利条約が採択されて以来、最も多くなっています。昨年国連は、紛争下の子どもたちに対する重大な権利侵害が1日あたり72件起きていることを確認しました。ユニセフは190以上の国と地域で、子どもたちの安全と健康を守り、学びと成長を支援するために活動しています。アフガニスタン、中央アフリカ共和国、エチオピア、モザンビーク、ミャンマー、シリア、ウクライナ、ベネズエラ、イエメンなどでは、暴力と紛争が子どもたちの命と幸福を脅かしています。どんな危機下でも、私たちは現場に留まり、活動を続けます。

私たちは、世界145以上の国と地域で危機に対応しています。紛争の増加、新型コロナウイルスの流行、気候変動など、今日ニーズはかつてないほど高まっています。ウクライナ危機の影響は、食料と燃料の価格が高騰するにつれて、世界中に及ぶこととなります。私たちは、ウクライナ東部で8年にわたり、紛争の影響を受けている子どもたちに支援を実施してきました。2022年の紛争激化を受け、その規模は急速に拡大されました。状況は危機的です。しかし、世界中の皆様からのご支援を得てウクライナ国内や難民受入国で進めることができる私たちの活動は、希望をもたらしています。

Thank you.